

# 第一章1.2節 情報科学の基礎理論

# 情報科学の基礎理論

## 数の表現 ～ 2進数～

コンピュータの基本は0と1で計算している。電源がOffの場合は0、電源がOnの場合は1となる。この電源On / Offの二つの状態から計算を行う場合、最も簡単な表現方法は2進数となる。

### 10進数

0 → 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 7 → 8 → 9 → 10 → 11 → 12 → 13

10個の数で表現

11個目は桁上がり

### 2進数

0 → 1 → 10 → 11 → 100 → 101 → 110 → 111

2個の数で表現

3個目は桁上がり



# 情報科学の基礎理論

## 数の表現 ～ 2進数～

2進数と10進数の変換、または8進数や16進数といった基数を変換することを**基数変換**と呼ぶ。

〈2進数→10進数の変換〉

2進数:

1

1

0

1



掛ける

重み:

$2^3$

$2^2$

$2^1$

$2^0$

10進数:

$1 \times 2^3$

+

$1 \times 2^2$

+

$0 \times 2^1$

+

$1 \times 2^0$

= 8

+

4

+

0

+

1

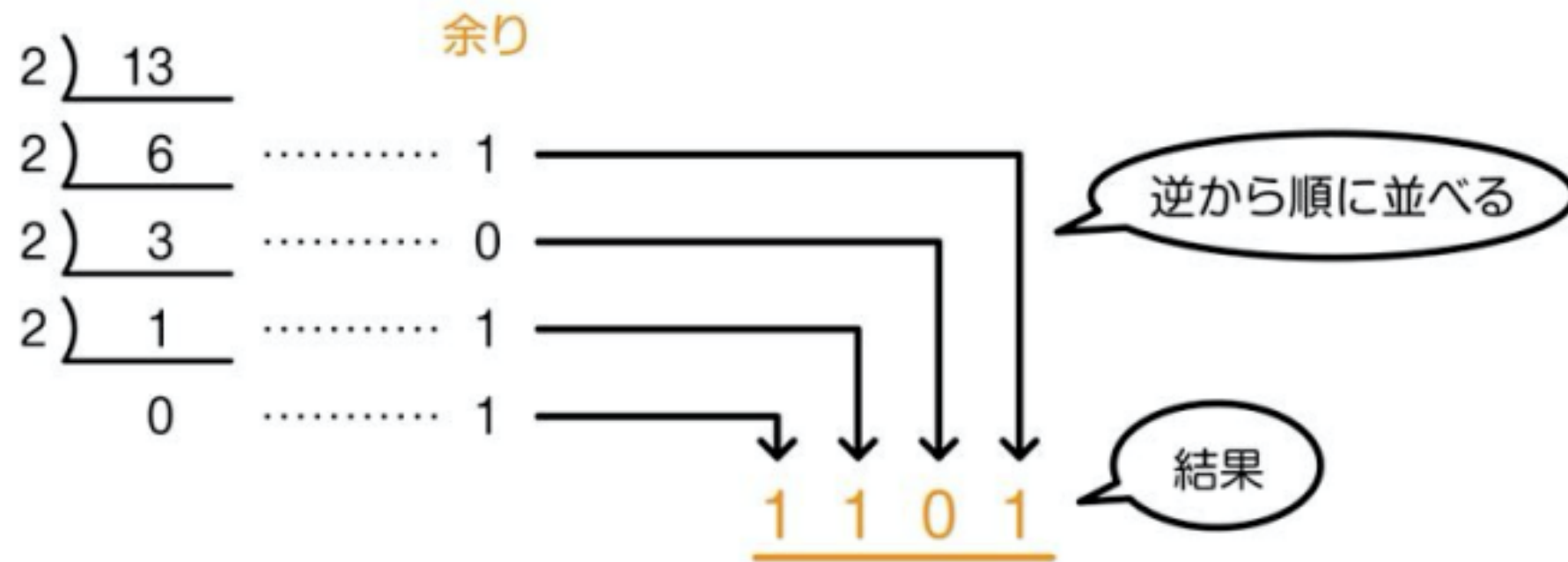
= 13

結果

# 情報科学の基礎理論

## 数の表現 ～ 2進数～

〈10進数→2進数の変換〉



# 情報科学の基礎理論

## 数の表現 〜8進数と16進数〜

〈8進数、16進数→10進数の変換〉

8進数: 5    1    2

↑    ↑    ↑

重み:  $8^2$      $8^1$      $8^0$  ← 基数は 8

10進数:  $5 \times 64 + 1 \times 8 + 2 \times 1 = \underline{330}$

結果

16進数: 1    F    B

↑    ↑    ↑

重み:  $16^2$      $16^1$      $16^0$  ← 基数は 16

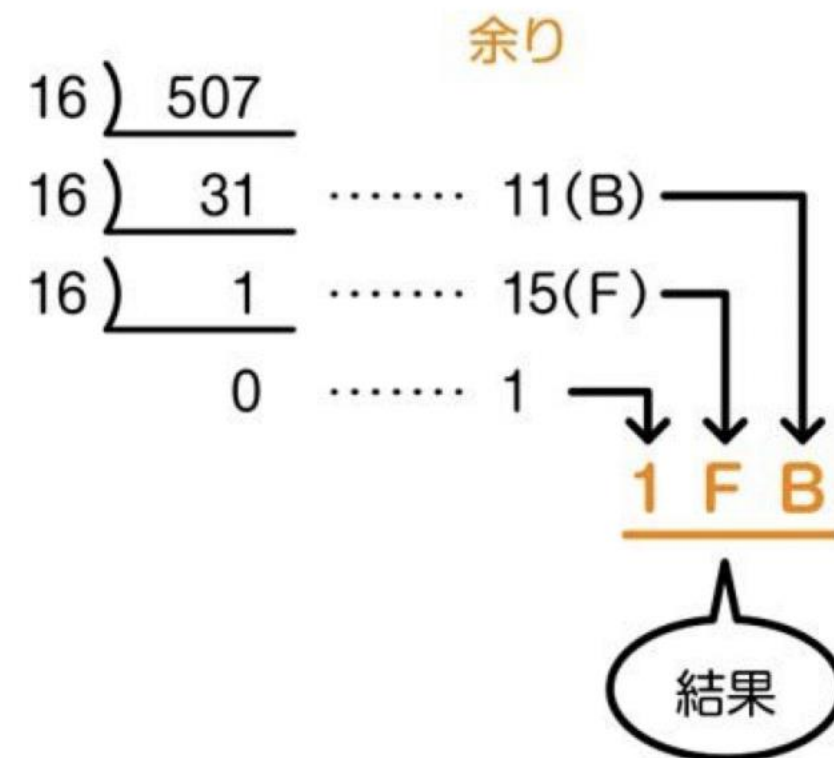
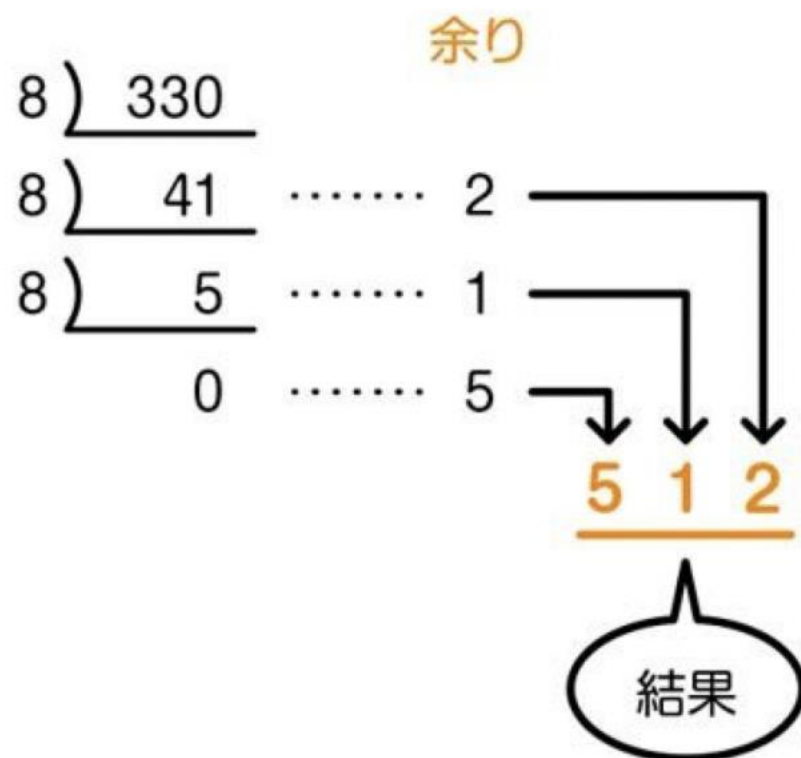
10進数:  $1 \times 256 + \frac{15}{(F)} \times 16 + \frac{11}{(B)} \times 1 = \underline{507}$

結果

# 情報科学の基礎理論

## 数の表現 ～ 2進数～

〈10進数→8進数、16進数の変換〉



# 情報科学の基礎理論

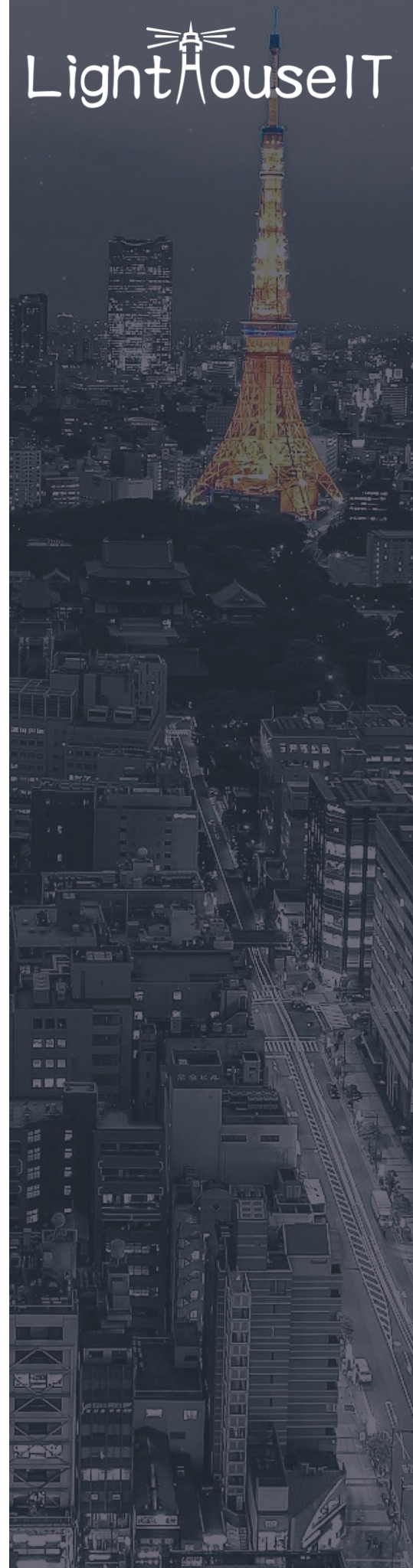
## 数の表現 ～ 2進数の足し算と引き算～

2進数の桁上がり  $1 + 1 = 10$  、 2進数の桁下がり  $10 - 1 = 1$

$$\begin{array}{r} \phantom{+} \phantom{000} 1011 \\ + \phantom{000} 0101 \\ \hline \phantom{000} 10000 \\ \\ \phantom{+} \phantom{000} 1011 \\ - \phantom{000} 0101 \\ \hline \phantom{000} 110 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \phantom{\times} \phantom{000} 1011 \\ \phantom{\times} \phantom{000} 101 \\ \hline \phantom{\times} \phantom{000} 1011 \\ \phantom{\times} \phantom{000} 0000 \\ \phantom{\times} \phantom{000} 1011 \\ \hline \phantom{\times} 110111 \end{array}$$





# 情報科学の基礎理論

## 進数対応表

10進数	2進数	8進数	16進数
0	0	0	0
1	1	1	1
2	10	2	2
3	11	3	3
4	100	4	4
5	101	5	5
6	110	6	6
7	111	7	7
8	1000	10	8
9	1001	11	9
10	1010	12	A
11	1011	13	B
12	1100	14	C
13	1101	15	D
14	1110	16	E
15	1111	17	F
16	10000	20	10

問題：  
人の指で最大何個  
の数を表現できる  
か考えてみよう！

16進数を表示する場合の表  
示方法

1. 右下に小さく“16”と書く  
(17FA)<sub>16</sub>
2. 冒頭に“0x”を書く  
0x17FA



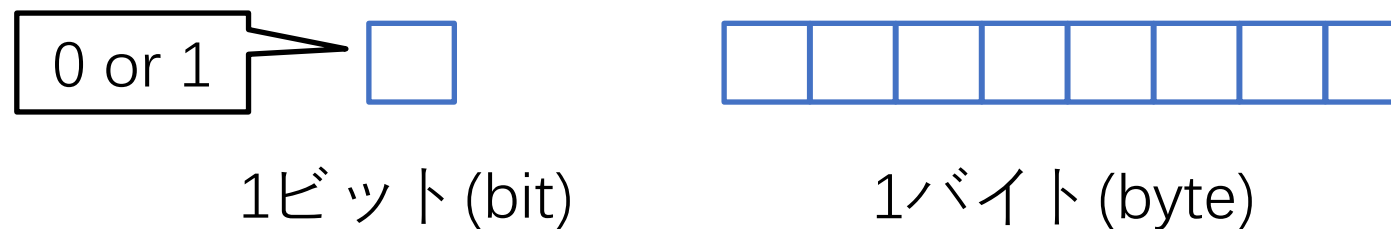
# 情報科学の基礎理論

## 数の表現

一度に最大で32ビットのデータを処理できるCPUを**32ビット CPU**、64ビットのデータを処理できるCPUを**64ビット CPU**と呼ぶ。

### ■ビットとバイト

コンピュータは2進数ですべてのデータが構成される。この時の最小単位「2進数の1桁分」を**ビット (bit)**と呼び、8ビット文をまとめた単位を**バイト (byte)**と呼ぶ。



$$\underline{8 \text{ ビット (bit)} = 1 \text{ バイト (byte)}}$$

### ■補助単位

大きい値の補助単位		小さい値の補助単位	
<b>k(キロ)</b>	$10^3 = 1,000$ 倍	<b>m(ミリ)</b>	$1/10^3 = 1/1,000$
<b>M(メガ)</b>	$10^6 = 1,000,000$ 倍	<b>μ(マイクロ)</b>	$1/10^6 = 1/1,000,000$
<b>G(ギガ)</b>	$10^9 = 1,000,000,000$ 倍	<b>n(ナノ)</b>	$1/10^9 = 1/1,000,000,000$
<b>T(テラ)</b>	$10^{12} = 1,000,000,000,000$ 倍	<b>p(ピコ)</b>	$1/10^{12} = 1/1,000,000,000,000$

# 情報科学の基礎理論

## 【問題】

2進数1011と2進数101を乗算した結果の2進数はどれか。

平成28年秋期 問91

4問目／選択範囲の問題数51問

ア

1111

イ

10000

ウ

101111

エ

110111

# 情報科学の基礎理論

## 【問題】

10進数155を2進数で表したものはどれか。

出典：令和2年秋期 問62

ア 10011011

イ 10110011

ウ 11001101

エ 11011001

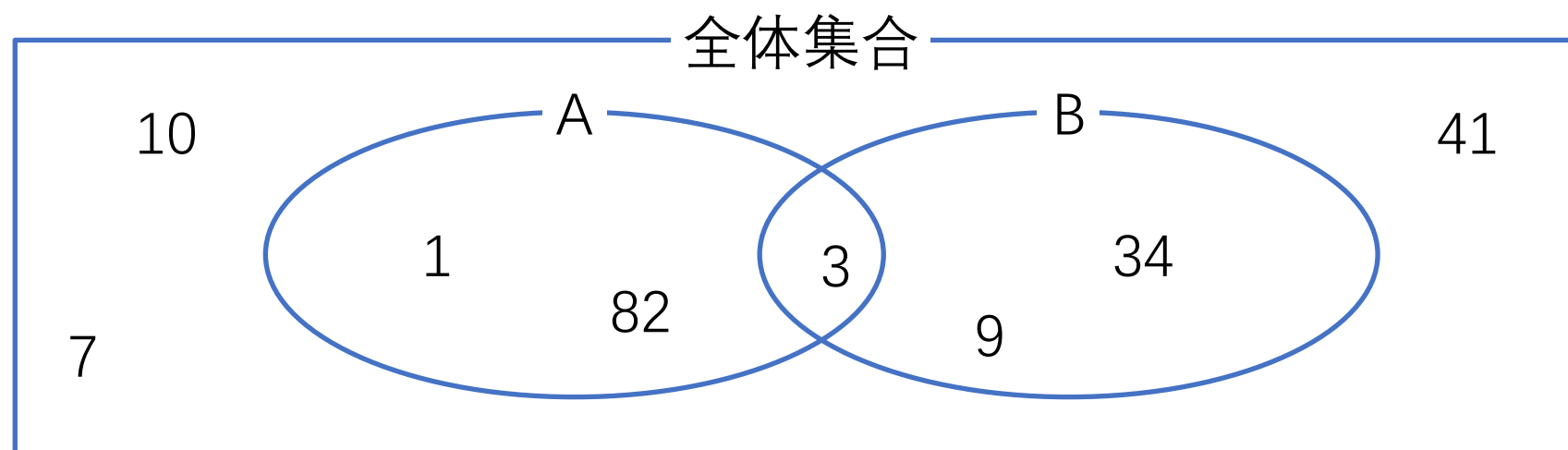


# 情報科学の基礎理論

## 集合論

コンピュータはデータを扱う時、条件で対象を絞り込みする。この絞り込み条件は集合論の概念を用いている。かつ (AND)、または (OR)、などを見ていこう

ある特性をもったデータ(要素)の集まりを**集合**という。集合を表す図に**ベン図**がある。

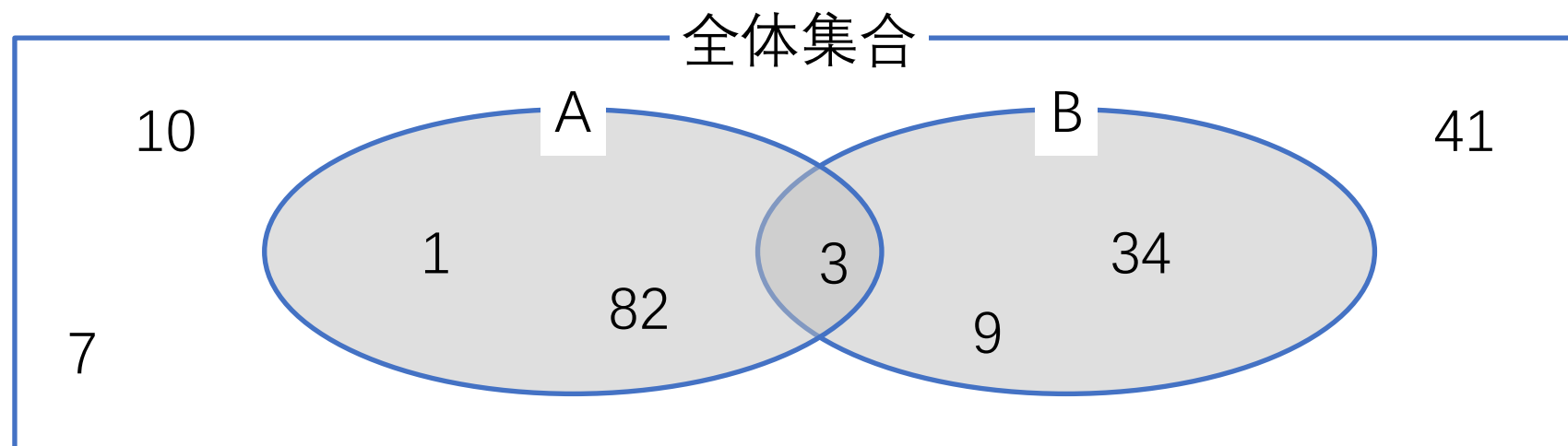


全体集合	対象とするデータすべてで構成される集合。
補集合	ある集合Aに対して「Aでない」要素の集まり。
部分集合	ある集合Aに対して「Aに含まれる」集合Bのこと。

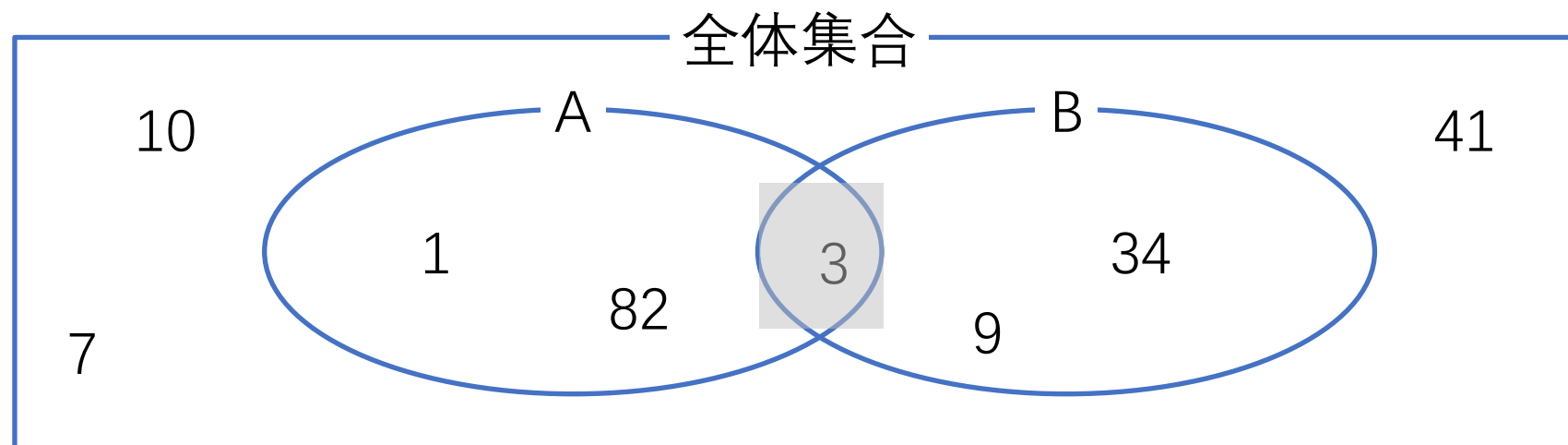
# 情報科学の基礎理論

## 集合論

和集合  $A$  または  $B$  ( $A \text{ OR } B$ )



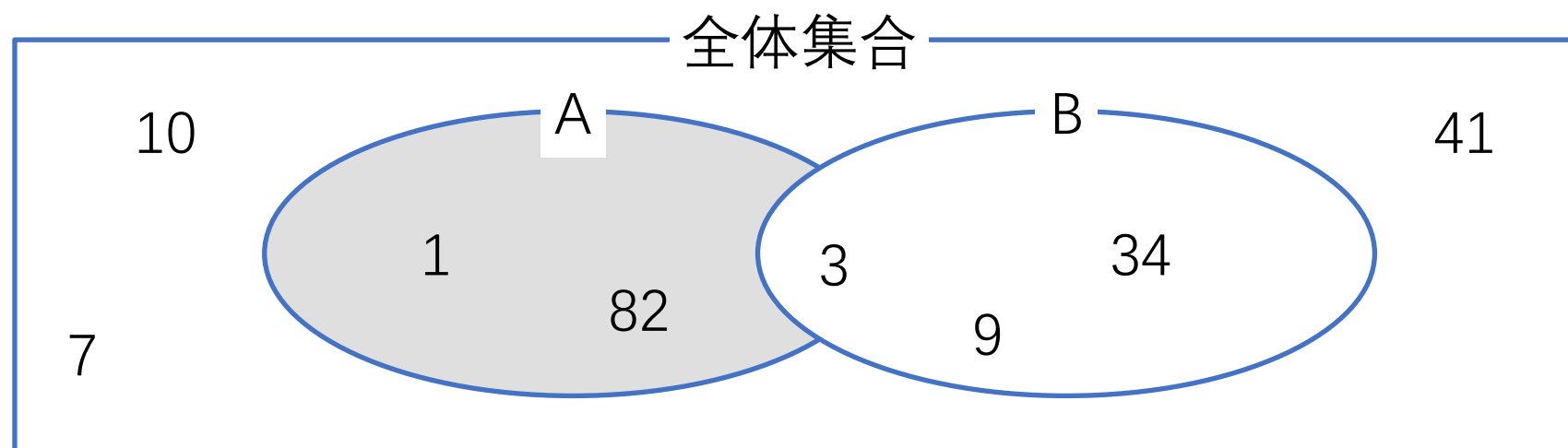
積集合  $A$  かつ  $B$  ( $A \text{ AND } B$ )



# 情報科学の基礎理論

## 集合論

排他集合 AかつBでない (A NOT B)





# 情報科学の基礎理論

## 集合論

### ■論理演算

論理和 (OR、または)	二つの値がいずれも偽 (0) のときのみ結果が偽 (0) となり、それ以外は真 (1) となる
論理積 (AND、かつ)	二つの値がいずれも真 (1) のときのみ結果が真 (1) となり、それ以外は偽 (0) となる
否定 (NOT、ではない)	値が真 (1) のときに結果が偽 (0) となり、値が偽 (0) のときに結果が真 (1) となる
排他的論理和 (XOR)	二つの値が異なるときに結果が真 (1) となり、二つの値が等しいときに結果が偽 (0) となる

真(true)と偽(false): 集合において、条件(A)を満たすこと、集合Aに含まれることを「真」といい、条件(A)を満たさない、集合Aに含まれないことを「偽」という。論理演算の場合、真を 1 で表し、偽を 0 で表す。

# 情報科学の基礎理論

## 集合論

### ■ 論理演算の真理値表

① 論理和

A	B	A OR B
1	1	1
1	0	1
0	1	1
0	0	0

② 論理積

A	B	A AND B
1	1	1
1	0	0
0	1	0
0	0	0

③ 否定

A	NOT A
1	0
0	1

④ 排他的論理和

A	B	A XOR B
1	1	0
1	0	1
0	1	1
0	0	0

各論理演算は、記号を用いて、

$$A \text{ OR } B \rightarrow A + B$$

$$A \text{ AND } B \rightarrow A \cdot B$$

$$\text{NOT } A \rightarrow \bar{A}$$

$$A \text{ XOR } B \rightarrow A \oplus B$$

のように表現することもあります。

# 情報科学の基礎理論

## 集合論

### 四則演算の交換法則

$$\begin{aligned}a + b &= b + a \\ a \times b &= b \times a\end{aligned}$$

### 四則演算の分配法則

$$a \times (b + c) = (a \times b) + (a \times c)$$

### 四則演算の結合法則

$$\begin{aligned}a + (b + c) &= (a + b) + c \\ a \times (b \times c) &= (a \times b) \times c\end{aligned}$$

### 論理演算の交換法則

$$\begin{aligned}a \text{ AND } b &= b \text{ AND } a \\ a \text{ OR } b &= b \text{ OR } a\end{aligned}$$

### 論理演算の分配法則

$$\begin{aligned}a \text{ AND } (b \text{ OR } c) &= (a \text{ AND } b) \text{ OR } (a \text{ AND } c) \\ a \text{ OR } (b \text{ AND } c) &= (a \text{ OR } b) \text{ AND } (a \text{ OR } c)\end{aligned}$$

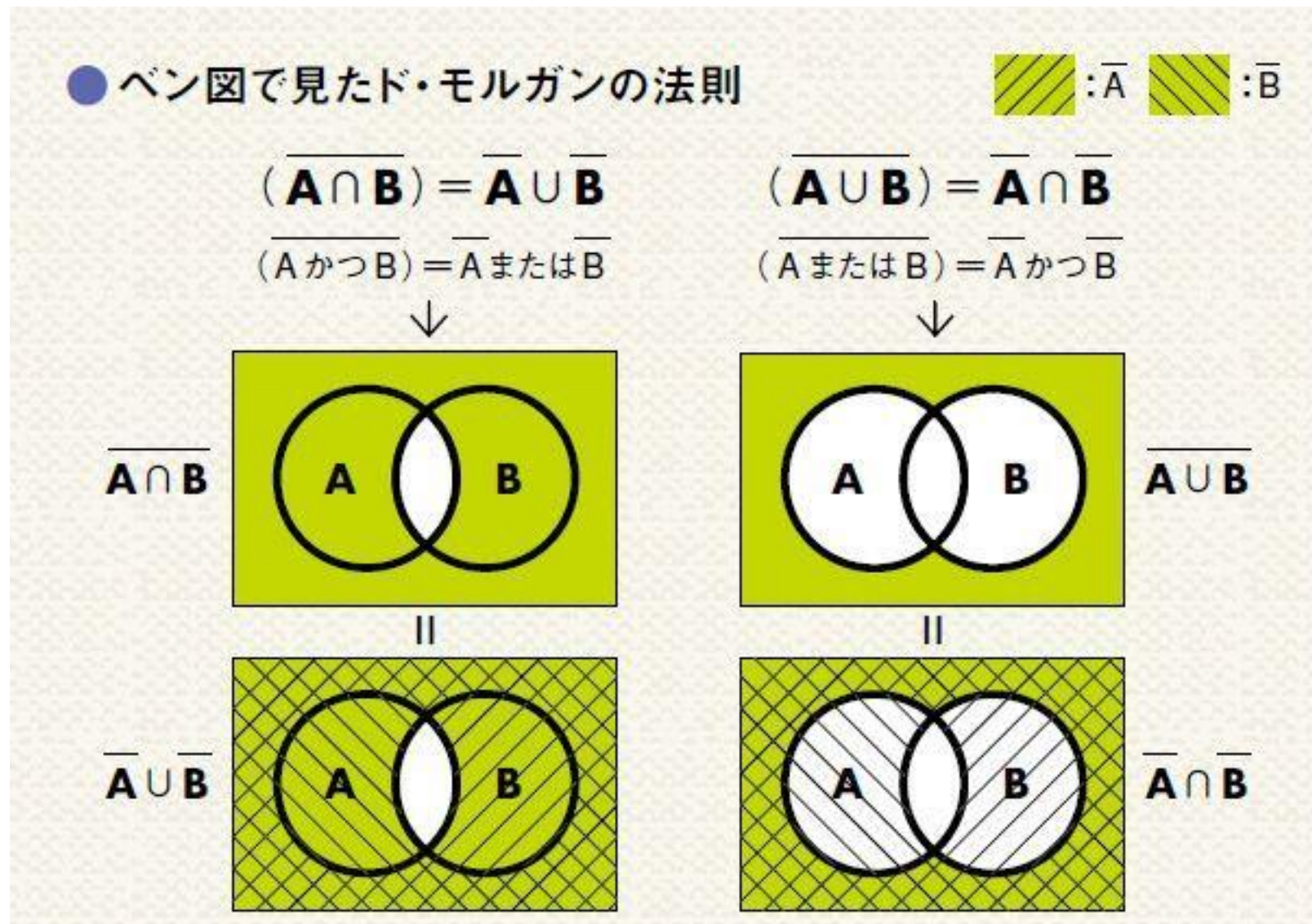
### 論理演算の結合法則

$$\begin{aligned}a \text{ AND } (b \text{ AND } c) &= (a \text{ AND } b) \text{ AND } c \\ a \text{ OR } (b \text{ OR } c) &= (a \text{ OR } b) \text{ OR } c\end{aligned}$$



# 情報科学の基礎理論

## ド・モルガンの法則



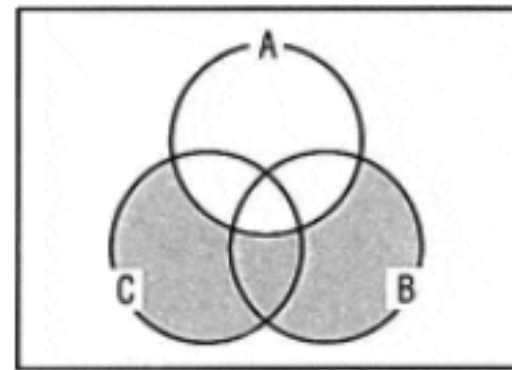
$$\text{NOT} ( a \text{ AND } b ) = ( \text{NOT } a ) \text{ OR } ( \text{NOT } b )$$

$$\text{NOT} ( a \text{ OR } b ) = ( \text{NOT } a ) \text{ AND } ( \text{NOT } b )$$

# 情報科学の基礎理論

## 【問題】 2-1

次のベン図の網掛けした部分の検索条件はどれか。



平成29年秋期 問98

40問目／選択範囲の問題数51問

ア (not A) and (B and C)

イ (not A) and (B or C)

ウ (not A) or (B and C)

エ (not A) or (B or C)

# 情報科学の基礎理論

## 【問題】

二つの集合AとBについて、常に成立する関係を記述したものはどれか。ここで、 $(X \cap Y)$ は、XとYの両方に属する部分(積集合)、 $(X \cup Y)$ は、X又はYの少なくとも一方に属する部分(和集合)を表す。

平成27年春期 問62

24問目／選択範囲の問題数51問

ア  $(A \cup B)$ は、 $(A \cap B)$ でない集合の部分集合である。

イ  $(A \cup B)$ は、Aの部分集合である。

ウ  $(A \cap B)$ は、 $(A \cup B)$ の部分集合である。

エ  $(A \cap B)$ は、Aでない集合の部分集合である。



# 情報科学の基礎理論

## 【問題】

二つの集合AとBについて、常に成立する関係を記述したものはどれか。ここで、 $(X \cap Y)$ は、XとYの共通部分(積集合)、 $(X \cup Y)$ は、X又はYの少なくとも一方に属する部分(和集合)を表わす。

出典：平成22年春期 問69

ア  $(A \cap B)$ は、Aでない集合の部分集合である。

イ  $(A \cap B)$ は、Aの部分集合である。

ウ  $(A \cup B)$ は、 $(A \cap B)$ の部分集合である。

エ  $(A \cup B)$ は、Aの部分集合である。

# 之前的课堂内容大家有任何疑问吗？





THANK YOU